



挨拶する吉田晴美衆院議員(立憲民主党)

7月10日に第26回参議院議員選挙の投票が行われ、改憲に積極的な自民・公明・日本維新の会・国民民主の4党で改憲発議に必要な3分の2の議席を超える議席を獲得した。

自民党を中心に改憲発議の動きが強まるなか、9条を守る闘いは正念場を迎えている。

改憲発議を許さない闘いを強化しよう

軍拡を狙う岸田政権に参院選で審判を下すことを確認

第26回参議院選挙公示前の6月19日に、戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会と9条改憲NO!全国市民アクション共催による、第79回19日行動「参院選勝利!ロシアのウクライナ侵略反対!即時撤退!改憲発議反対!軍拡やめろ!辺野古新基地建設中止!くらしのいのちを守れ!6・19議員会館前行動」が開催され、労働者・市民800人が結集した。

主催者を代表して挨拶した共同代表の小田川義和さんは、「改憲や軍拡など、戦争への道を突き進む自民党や維新の会を許さない結果を参院選で出そう」と強調した。

政党では、3野党(立憲民主党・日本共産党・社民党)の代表が参加し、憲法を無視して戦争する国づくりを進める岸田政権を糾弾し、「平和外交こそ政治の責任」「改憲策動は許さない」と述べ、「参院選で政治を変えよう」と訴えた。

その後、市民団体からの連帯挨拶が行われ、ウクライナを取材したジャーナリストの志葉玲さんは、「現地でロシア軍による非人道的な戦争犯罪が起きていた」と報告し、「危機に乗じて改憲や軍拡を狙う自民党などに怒りを感じる。参院選で、憲法9条の価値を世界に発信する政治に変えよう」と述べた。



港区新橋 5-15-5
国鉄労働組合中央本部
☎ 03-5403-1640
発行人 松川 聡
編集責任者 瀧口良二
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

月間
6・13 アマゾン個人事業主配達員が「実態は雇用労働者と同じ」と労組結成
6・15 第208通常国会が閉会、61法案すべて成立

6・17 最高裁が原発避難者4訴訟で国の責任を認めない不当な統一判断示す
6・19 コロンビアで左派政権誕生、親米路線転換へ
6・21 日本政府が核兵器禁止条約第一回締結国会議のオブザーバー出席見送る
6・22 第26回参議院議員

選挙が告示、21選挙区で野党が競合、政権批判票分散
6・24 米連邦最高裁、人工中絶を憲法上の権利として認めた49年前の判決覆す
6・28 G7首脳声明でロシア・中国との対決姿勢鮮明にワトルコが一転支持、北欧2国がNATO加盟へ

7・2 auが全国で通信障害、全面復旧まで86時間
7・7 不祥事が続いたジョンソン英首相が辞意表明
7・8 安倍元首相が遊説先の奈良県で銃撃受け死亡
7・10 参院選投票開票、自民党改選単独過半数、衆参両院で改憲勢力3分の2へ



主催者挨拶する菱山南帆子さん

応援に駆け付けていた奈良市で銃撃され死亡するというショッキングな事件が起き、自民党への同情票も加わり、自民党が単独で改選過半数を超える議席を獲得した。

参議院選挙での野党共闘は、32の1人区の半分近くで野党の候補が1人に絞られ、さまざまな形で野党共闘が取り組まれ、勝利を勝ち取った選挙区も生まれた。特に大激戦となった沖縄では、「オール沖縄」の伊波洋一さんが当選を勝ち取った意義は大きかったが、憲法改正に前向きな自民・公明・日本維新の会・国民民主の4党に改憲発議に必要な3分の2の議席を超える結果となった。

労働者・市民と立憲野党の共闘で平和憲法を守ろう

参議院選挙後の7月19日に、戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会と9条改憲NO!全国市民アクション共催による、第80回19日行動「改憲発議反対!軍拡やめろ!辺野古新基地建設中止!ロシアはウクライナから即時撤退せよ!くらしのいのちを守れ!7・19国会議員会館前行動」が開催され、労働者・市民600人が結集した。

主催者を代表して菱山南帆子さんが、「選挙でも市民と野党の共闘が重要だということに明らかになった。岸田政権は国会の議論すらなく安倍元首相の国葬を決め、さらに改憲も狙っている。こうしたおかしいことは許さないと訴え続けよう」と挨拶した。

政党からは、立憲民主党の吉田晴美衆院議員、日本共産党の田村智子副委員長、社民



党の福島瑞穂党首が挨拶し、国会で議論すべきことが山積みな中、国民に弔意を押し付ける安倍元首相の国葬に反対し、市民との対話を大事にしなから、「改憲阻止、暮らしを守れ」の声を広げようと訴えた。

連帯挨拶では、オール沖縄会議の福元勇司事務局長がオンラインで参加し、参院選で伊波洋一さんが勝利したこと報告し、「玉城デニー沖縄県知事とともに、名護市辺野古への米軍新基地建設は反対だ」と言い続ける」と挨拶した。これから、自民党などによる改憲や軍拡の動きが強まると予想されるが、私たちは、労働者・市民と立憲野党の共闘により、改憲発議阻止、改憲案の提示を許さない闘いを引き続き強化し、平和憲法を守っていかなければならない。

主権者を代表して菱山南帆子さんが、「選挙でも市民と野党の共闘が重要だということに明らかになった。岸田政権は国会の議論すらなく安倍元首相の国葬を決め、さらに改憲も狙っている。こうしたおかしいことは許さないと訴え続けよう」と挨拶した。

参議院選挙後の7月19日に、戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会と9条改憲NO!全国市民アクション共催による、第80回19日行動「改憲発議反対!軍拡やめろ!辺野古新基地建設中止!ロシアはウクライナから即時撤退せよ!くらしのいのちを守れ!7・19国会議員会館前行動」が開催され、労働者・市民600人が結集した。

組織拡大

◎東京地方本部・神奈川地区本部・横浜1名 7月1日付 ◎東京地方本部・神奈川地区本部・新鶴見機関区分会 大場洋一郎さん 33歳 7月15日付

ご支援ありがとうございました

7月6日、韓国サンケン労組の闘いは妥結し、最終的に「7月10日投票の明記などの改憲を早期に実現すると打ち出した。」

参議院選挙の結果は、過去4番目に低い52・05%という投票率が示すように、有権者の関心が薄い中、7月8日に安倍元首相が、参議院選挙の

7月10日投票が行われた第26回参議院選挙は、いわゆる「改憲勢力」が、改憲発議に必要な3分の2以上を確保した。これを機に、岸田首相は、改憲草案づくりの議論を加速させる姿勢を表明した。日本を「戦国」にするという議論、改憲に拍車をかけることになり兼ねず、さらに、憲法は国の最高法規であり、時々の政治情勢や政権により容易に改正される性質のものではなく、数の力を頼りに強引で拙速な議論は避けなければならない。国鉄労働組合は終戦の翌年、二度と戦争協力はない」と誓い結成され、綱領に明記し反戦・平和を掲げ今日まで闘い続けており、「改憲阻止」に向けた世論と運動を広げることが重要である。参議院選の際で、新型コロナウイルス感染症の更なる変異により、爆発的に感染者数が増加し第7波が急襲している。先の見えない不安の中で、ウクライナ情勢による資源価格の高騰や円安に歯止めが見られず、国民の暮らしをなによりも優先する政治への転換が求められている。▼コロナ禍3年目を迎え、私たちを取り巻く環境は大きく変化した。私たちは、エッセンシャルワーカーと位置付けられた労働者として、国民の生命と財産を守る立場から、感染リスクに晒されながら、その使命を果たしている。▼課題は山積しているが、「コロナだから」というアキラメ感を払拭し、この現状を打開し、働く者の生活と権利を守るために、団結して闘いを一層強化しよう。(木)

